# ポップアートとシュルレアリスム

## ー20 世紀絵画の方法を理解するための多面的学習ー

湯川雅紀（和歌山県立神島高等学校、田辺高等学校、南部高等学校）

### 題材コンセプト

20 世紀においてイメージの異化という方法が、美術の価値基準に新たに加えられた。これはあるイメージを普段とは違う状況に置き、その見え方や意味を変容させることによって新しい表現の可能性を探る方法であり、キュビスムのパピエ・コレによって創められ、ダダやシュルレアリスムなどの 20 世紀初頭を代表する芸術運動の主要な概念の 1 つとなった。そしてこの方法は戦後のポップアートやネオダダにも受け継がれ、現代美術の作品を読み解く視点としても、いまだ有効であると考えられる。

今回、イメージの異化をテーマとする題材開発にあたり、ポップアートとシュルレアリスムという二つの芸術運動を取り上げ、連続する互いに独立した題材として実践をおこなった。これによりイメージの異化というテーマを多面的に教えることができ、これが美術史上大きな役割を果たしたこと、および現代美術を理解するために重要な概念であることをより深く理解させられるのではないかと考えた。

### 1．題材について（題材観）

現代絵画においてイメージの異化を考える際、参照されるべき美術史上の芸術運動といえばまず、ポップアートが挙げられるであろう。中でもウォーホルは、ヨーロッパではすでにイメージを扱う現代絵画を評価する上でのレファレンスとなっている。大衆的・低俗なイメージを芸術作品として呈示したり社会的なイメージを反復させ、意味を変容させたりといった手法を特徴とするウォーホルの作品は、まさにイメージの異化である。そこで、20 世紀美術の方法を通じて現代美術の問題意識を理解するために最初に扱う題材として、ウォーホルを選択し、彼の作品を通してポップアート全般についても関心を深めさせることにも留意しながら題材化を試みた。

和歌山県立神島高等学校 2 年生　指導：湯川雅紀 2011

和歌山県立神島高等学校 2 年生　指導：湯川雅紀 2011

次にポップアートが生み出された背景として考えられる美術史上の芸術運動の中から、シュルレアリスムに着目した。ただシュルレアリストの中でもダダ的なイメージの異化をテーマとしたマグリットを題材として選択し、彼の絵画を通してシュルレアリ

スムへの理解を深めさせ、ポップアートとの連続した問題意識に関心を持たせようとした。

和歌山県立田辺高等学校1年生　指導：湯川雅紀2011

## 2．学習目標

**≪ウォーホルとポップアート≫**

**(1)** ポップアートの世界に興味を持ち、自身の環境とポップイメージとの関わりに関心を持つ。[関心・意欲・態度]

**(2)** ポップアートの基本的な考え方に基づき、自分なりの現代的ポップイコンを考え、作品化に向けて構想する。[発想・構想＋創造的技能]

**(3)** 色彩の組み合わせなどに留意し、イメージを操作して作品を制作する。[創造的技能]

**(4)** ポップアートの基本的な概念と美術史的な意味を理解し、消費社会における視覚イメージについて関心を深める。[鑑賞]

和歌山県立田辺高等学校1年生　指導：湯川雅紀2011

≪マグリットとシュルレアリスム≫

**(1)** シュルレアリスム絵画に興味を持ち、前回学習したポップアートとの関連について関心を持つ。[関心・意欲・態度]

**(2)** シュルレアリスムの特徴である不条理性を理解し、作品化に向けて構想する。[発想・構想]

**(3)** 水平線を用いた空間表現に留意し、シュルレアリスム絵画を制作する。[創造的技能]

**(4)** シュルレアリスムの基本的な概念と美術史的な意味を理解し、イメージの異化について関心を深める。[鑑賞]

和歌山県立神島高等学校2年生　指導：湯川雅紀2011

## 3．学習の流れ・指導計画

**≪ウォーホルとポップアート≫**

**■第一次**：ポップアートを理解する。

ポップアートの代表的作家の1人であるアンディ・ウォーホルの作品を鑑賞し、ポップアートが発生した歴史的背景やその意義について学ぶ。当時美術とは無縁と考えられていた、映画スターの写真や、日常的な大量生産品などをモチーフとして取り上げた意味について考えさせたい。

**■第二次**：ポップアートを制作する。

また、現代においてポップなイメージとは何かを考え、自分流ウォーホル的ポップアートの制作に取り組ませる。4つ切り画用紙にモチーフとなる画像を正確に拡大し、最終的に2～5色の塗り分けによって作品を完成させる。

**■第三次**：鑑賞。

まとめとして、現代美術の作品を鑑賞。先端的な仕事に今もなおポップアートの精神が根付いていることを理解し、歴史的な連なりの中で美術作品を見ることに興味を持たせたい。

≪マグリットとシュルレアリスム≫

■**第一次**：シュルレアリスムを理解する。

前回の題材であるポップアート以前に、その背景となるような芸術運動があったことを学習する。

シュルレアリスムの有名な詩、ロートレアモンの『手術台の上のミシンとこうもり傘の出会い』を紹介し、同様の、「場」+「物」+「物」というあり得ない出会いについて、思いつく限り多くのアイデアを出してみる。

■**第二次**：シュルレアリスム絵画の制作。

シュルレアリスム絵画の「場」を統一するため、今回は水平線を使用することを伝え、海を撮影する。撮影した写真を参考にして、**8**つ切り画用紙に海の絵を制作。その後、海の上であり得ない物たちの出会いを考え、シュルレアリスム絵画を完成させる。

■**第三次**：鑑賞

シュルレアリスムを代表する作家であるマグリットの作品を鑑賞し、自分たちが創った作品と比べて感想を述べ合うことで、シュルレアリスム絵画に対する理解を深める。

和歌山県立神島高等学校**2**年生　指導：湯川雅紀**2011**

## 4．指導のポイント・学習のフォーカス

≪ウォーホルとポップアート≫

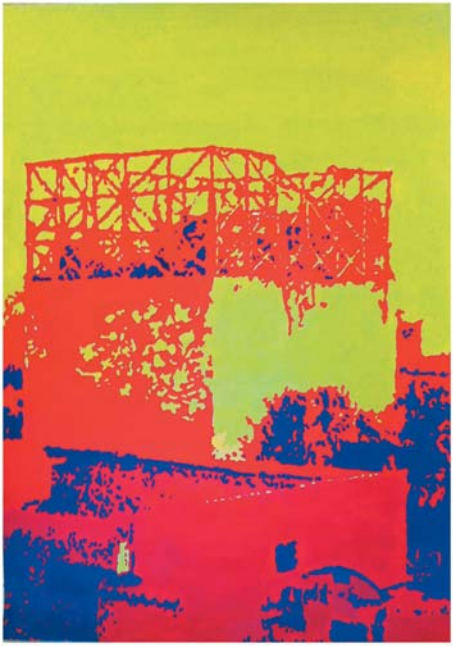
○導入ではプリントでウォーホルの作品をいくつか紹介し、まずは各自で彼について調べさせた。その後ワークシートを使って補足説明を行う。

○制作にあたっては、もし現代にウォーホルがいたらどんなイメージを選んだだろうか、と考え、思いつくままワークシートにアイデアを書き出させる。

○イメージの決定にあたっては、社会的な認知度や、美術作品として取り上げるとどう見えるか、といった点に留意する。

○下絵を作成する際は、イメージをパソコンソフトで白黒の**2**トーンに変換。

○まとめとして、ジェフ・クーンズと村上隆の作品を鑑賞し、彼らの作品の中にあるポップアートとの共通点や相違点について考えさる。



和歌山県立田辺高等学校**1**年生　指導：湯川雅紀**2011**

≪マグリットとシュルレアリスム≫

○導入においては、ポップアートの背景となった芸術運動としてシュルレアリスムを紹介し、デュシャンの『泉』を見せながらその概念について説明。生徒たちがシュルレアリスムで扱うイメージについて、先入観なく考えられるよう、あえて絵画作品は見せずに授業を始めたいという狙いがあった。

○シュルレアリスム絵画の「場」を水平線のある風景（海）に統一したのは、前回のポップアートの制作ではその題材の性格上、色彩表現の工夫に重点が置かれたので、今回は絵画空間の表現に取り組ませようと考えたからである。また実践の対象となる学

和歌山県立神島高等学校2年生　指導：湯川雅紀2011

校が海に近い立地であったことも理由の1つである。
○海の撮影には生徒が持参した携帯電話のカメラ1使用。携帯電話は、その後の制作で、海で出会うモチーフの写真資料を検索するためにも使用した。
○マグリットの鑑賞は最後のまとめで行った。自分たちが制作した作品と比較しながら、共通点や相違点を話し合う。

## 5．鑑賞と批評

現代的ポップアートの制作において、様々な社会的なイメージを作品化することができたこと（ビン・ラディンや原発事故など）、およびシュルレアリスム絵画の制作において、イメージの異化という問題を超えて絵画空間そのものの構造を問うような作品を制作した生徒が現れたこと（カーテンとその向こうの異空間を描いた作品）などは、学習目標を超えた成果と考えてよいであろう。

その他、鑑賞活動においては、≪ウォーホルとポップアート≫のまとめにおいて、ジェフ・クーンズや村上隆の作品を鑑賞した際、これからはどんなものを美術館に展示するとポップなのかという議論になり、「動物をそのまま展示する」、「過去の名画の顔を今風に変える」などのアイデアが出た。これらはそのまま現代美術の作家たちが現在発表している作品にそのまま対応する（前者はダミアン・ハーストやカールステン・ヘラー、後者は森村泰昌）ものであり、今回の題材開発が、高等学校において生徒たちの現代美術の理解のために有効であるということがいえる。

和歌山県立神島高等学校2年生　指導：湯川雅紀2011